

科目名	音響				
担当教員	株式会社サウンドエイト 長谷川 辰也	実務授業の有無	○		
対象学科	音響・声優スタッフ科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	48時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 音響機材の使用法、名前を覚える 2. 各種ケーブルの取り扱い、取り回しを学ぶ 3. 録音機材を使用し、収録した音声を整音する				
学習目標 (到達目標)	音の性質を理解し、扱えるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	音響基礎実習Ⅰ	映像制作における音の役割、録音のやり方を学ぶ			
2	音響基礎実習Ⅱ	音との性質、録音技法、マイクの仕組み方法、ケーブルの種類、扱い方法を学ぶ			
3	音響基礎実習Ⅲ	録音機材の準備方法、撤収方法			
4	音響基礎実習Ⅳ	ブームの使用法、レコーディング、ミキシング方法を学ぶ			
5	音響基礎実習Ⅴ	スタジオ録音実習			
6	音響基礎実習Ⅵ	アフレコ録音実習			
7	音響基礎実習Ⅶ	アフレコ録音実習			
8	音響基礎実習Ⅷ	効果音実習（作成および、録音、適切な選択方法）			
9	音響基礎実習Ⅸ	効果音実習（作成および、録音、適切な選択方法）			
10	音響基礎実習Ⅹ	整音実習（アフレコ素材の整音）			
11	音響基礎実習Ⅺ	整音実習（アフレコ素材の整音）			
12	音響基礎実習Ⅻ	整音実習（アフレコ素材の整音）			
13	音響仕上げ実習Ⅰ	ミックスダウンを行ってみる。			
14	音響仕上げ実習Ⅱ	ミックスダウンを行ってみる。			
15	音響効果研究Ⅰ	アカデミー録音賞の作品を鑑賞し、音がどのような役割を果たしているかを学習する			
16	音響効果研究Ⅱ	アカデミー録音賞の作品を鑑賞し、音がどのような役割を果たしているかを学習する			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
実技試験70%、出席率30%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。		積極的に実習に取り組み、全ての実習項目に出席し、かつ音響効果を用いた短編映像作品を完成させること。			
実務経験教員の経歴	新潟市を中心にイベント、舞台等の照明・音響を手がける。				

科目名		照明			
担当教員	新潟照明技研 五味澤 和宏	実務授業の有無	○		
対象学科	演劇・声優スタッフ科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	48
授業概要、目的、授業の進め方	1. ステージ照明の機材・装置の使い方を理解する 2. ステージ照明のプランニングが出来る。 3. 電気・作業手順など安全面を理解する。				
学習目標 (到達目標)	安全に、作業を行うとともに、必要な機材の選定、使用方法を理解し、簡単な演出照明とプランニングを習得する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	照明基礎1 機材について	舞台照明の役割。機材の出し方、しまい方			
2	照明基礎2 照明卓操作と色の変化	機材の名称、使い方と安全な作業について			
3	照明基礎3 機材について復習と灯体の種類	各自で出し方、しまい方。 照明の各種灯体の説明。灯体の移設と撤去。			
4	照明基礎4 図面の見かたと電気の基礎知識	図面の読み方。回路など電気の知識。 灯体の吊り込み方について。			
5	照明基礎5 照明の図面を使ったイメージ作り	吊り込み実習。灯体に配色。ポリカラーの解説。			
6	照明基礎6 電気基礎 原理基本編	オームの法則、左手の法則など。 一般照明とLEDの設置方法など、照明器具の設置。			
7	照明基礎7 電気基礎 応用編	灯具総電圧容量、使用電気の確認方法等 照明のフォーカス（当たり合わせ）			
8	照明基礎8 照明仕込み図の作り方	図面の作り方、イメージの具現化 図面の仕込みを実際にやってみる			
9	照明基礎9 前期復習（テスト）	前回までの復習と知識面のテスト 人・場面の動きに合わせた操作、スポットフォロー			
10	照明基礎10 基礎授業前期のおさらい	休暇明け、基礎知識・技術の呼び戻し			
11	照明基礎11 演目とイメージ	演目を仮設定し、図面おこし。仮設定された演目の図面から実際に設置し、相違点を発見・修正			
12	照明基礎12 音楽モノの照明プラン	音楽モノの照明について 音楽照明プランと曲に合わせての照明操作			
13	照明基礎13 芝居などの効果演出	演劇用効果の出し方、照明演出について 芝居演目に対応した照明操作			
14	照明基礎14 演出に必要な照明部材と素材	演出照明に必要な機材等の説明 演出用の特殊な装置、灯具などの取り扱い、操作方法			
15	照明基礎15 プランニングまとめ	照明プランに関する復習 操作棒の使い方。高所灯具のフォーカシング			
16	照明基礎16 基礎のまとめ	照明の基礎知識と器具の管理・操作について総ざらい			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D 評価を不可とする。		実践を想定して行っています。実習中すべての指示が最速で結果に繋がっていくとは限りません。学ぶ上で、可能な限りのアクシデント及び本番時間による環境の変化を想定して、最適な対応を出来るよう心掛けてください。			
実務経験教員の経歴	新潟市の音響、照明の会社イベントをはじめ、舞台等、照明と音響を手がける				

科目名		動画制作配信			
担当教員	広川 一義		実務授業の有無	○	
対象学科	演劇・声優スタッフ科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 配信機材の名前、種類、扱い方を学ぶ 2. 基本的な配信システムの考え方を学ぶ 3. 映像作品を作って配信				
学習目標 (到達目標)	学生自身で配信のイベント企画、実施				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	教科書は使用しない、必要な資料はその都度配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	配信基礎Ⅰ		配信機材の種類、名前を学習する		
2	配信基礎Ⅱ		配信機材の仕組み、使用方法を学習する		
3	配信基礎Ⅲ		配信設備の組み立てを行う		
4	配信基礎Ⅳ		WEB配信に必要な基礎的知識を学ぶ		
5	配信基礎実践Ⅰ		基本的な配信設計に基づいて、配信設備をセッティングしてみる		
6	配信用映像制作		撮影・編集		
7	配信用映像制作		撮影・編集		
8	配信用映像制作		撮影・編集		
9	配信基礎Ⅱ		機材を複数用いた配信機材の仕組み、使用方法を学習する		
10	配信基礎Ⅱ		機材を複数用いた配信機材の組み立てを行う		
11	配信基礎Ⅱ		複数の機材を使用した、配信ワークの基礎を学ぶⅠ		
12	配信基礎Ⅱ		複数の機材を使用した、配信ワークの基礎を学ぶⅡ		
13	配信基礎実践Ⅱ		配信設計に基づいて、配信設備をセッティングしてみる		
14	配信基礎実践Ⅱ		映像作品の配信		
15	配信基礎実践Ⅱ		映像作品の配信		
16	配信基礎実践Ⅱ		映像作品の配信		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
実技試験70%、出席率30%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			16回すべての授業に出席し、イベントの企画配信を行う事		
実務経験教員の経歴	映像制作プロダクションにて10年番組制作に携わる				

②

科目名		マネジメント			
担当教員	安川 嘉文		実務授業の有無	○	
対象学科	演劇・声優スタッフ科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	16時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 舞台演劇・ステージイベントの仕組みを理解する 2. 本番に必要な準備と流れを理解する 3. イベント進行時の安全について深く理解する				
学習目標 (到達目標)	本番時の観客とステージ側の進行の責任者であるとともに、安全面の責任者であることも理解する				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	実際に使われた公演資料のコピーを配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	舞台イベントの種類		演劇・音楽劇・コンサートなど		
2	舞台イベントでの進行係		必要な知識について		
3	舞台監督の存在		ステージマネージャーについて		
4	演目によるルール1		現場や内容によってルールが違う場合がある		
5	演目によるルール2		舞台上の道具の扱いや楽器などについて		
6	演目によるルール3		スタッフ間による情報の共有		
7	イベント進行1		演目のスムーズな進行		
8	イベント進行2		劇場内通路確保について		
9	進行について まとめ		まとめ		
10	ステージマネジメントについて		安全のためのスムーズな進行係		
11	演劇の舞台進行について1		出演者の楽屋と舞台袖		
12	演劇の舞台進行について2		客席の配置と非常時の誘導		
13	演劇の舞台進行について3		演技スペースの確保		
14	演劇の舞台進行について4		ステージ進行表1		
15	演劇の舞台進行について5		ステージ進行表2		
16	演劇の舞台進行について6		ステージ進行表3		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			出来ることとそうでないことに対する判断力が大切な仕事です。 演出の言いなりにならず、役者・観客・スタッフの安全な環境をどう作り上げるかが、スムーズな進行に繋がるという考えを大切にしてください。		
実務経験教員の経歴	舞台演劇活動歴10年以上				

科目名		演習			
担当教員		安川 嘉文		実務授業の有無	
対象学科		演劇・声優スタッフ科	対象学年		1
必修・選択		必修	単位数		1
授業概要、目的、授業の進め方		1. 舞台公演に伴う俳優及びスタッフ系総合授業。 2. スタッフの役割とキャストにおけるの係わりを理解する。 3. 台本から演出を考える。			
学習目標 (到達目標)		大小問わず、ステージでの作品作りが出来るようになること。発表を意識した、準備・稽古が行える。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		各種台本のコピーを配布			
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	ステージプラン			公演準備について	
2	ステージプラン			作品テーマと公演内容（台本選び）	
3	ステージプラン			広報関係と公演日程	
4	ステージプラン			スタッフ関係について	
5	ステージプラン			演出家について	
6	劇場での仕事			演目の種類	
7	劇場での仕事			受付や公演時間、案内について	
8	劇場での仕事			劇場スタイルとキャバ。劇場内スタッフの役割など	
9	企画発表（プレゼン）			公演企画書の提出とプレゼン	
10	演劇での模擬稽古にて			キャストを入れて、スタッフの動きを考える	
11	演劇での模擬稽古にて			キャストを入れて、スタッフの動きを考える	
12	演劇での模擬稽古にて			キャストを入れて、スタッフの動きを考える	
13	演劇での模擬稽古にて			キャストを入れて、スタッフの動きを考える	
14	演劇での模擬稽古にて			キャストを入れて、スタッフの動きを考える	
15	演劇での模擬稽古にて			キャストを入れて、スタッフの動きを考える	
16	発表			本番を意識した演劇公演の実施	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。				その他カリキュラムでの総合的な発表の場を想定して行うので、ステージスタッフとしての仕事の考えられる計画や準備を重要視して行っていく。	
実務経験教員の経歴		舞台演劇活動歴10年以上			

科目名		舞台			
担当教員		安川 嘉文		実務授業の有無	
対象学科		演劇・声優スタッフ科	対象学年		1
必修・選択		必修	単位数		—
			開講時期		前期・後期
			単位時間数		16時間
授業概要、目的、授業の進め方		1. 舞台制作に伴うスタッフ系総合授業。 2. スタッフの役割りを理解する。 3. 台本から演出を考える。			
学習目標 (到達目標)		大小、演目問わず、ステージでの必要作業を理解する。発表を意識した、準備と本番が行える。			
テキスト・教材・参考図書・その他資料		各種台本のコピーを配布			
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	ステージについて		演目や発表形態などによる制作について		
2	ステージ制作		作品テーマと公演内容(台本選び)		
3	ステージ制作		行程を考え、進め方を決めていく。		
4	ステージ制作		音響照明美術進行など、スタッフ関係について		
5	ステージ制作		演出家及び演出プランについて		
6	劇場での仕事		演目の種類と準備		
7	劇場での仕事		受付や公演時間、案内について		
8	劇場での仕事		劇場スタイルとキャバ。劇場内スタッフの役割など		
9	企画発表(プレゼン)		公演企画書の提出とプレゼン		
10	舞台美術製作		美術製作と照明		
11	舞台美術製作		美術製作と照明		
12	舞台美術製作		美術製作と照明		
13	舞台美術製作		舞台美術と全体スタッフのまとめ		
14	演劇での模擬稽古にて		キャストを入れて、スタッフの動きを考える		
15	演劇での模擬稽古にて		キャストを入れて、スタッフの動きを考える		
16	発表		本番を意識した演劇公演の実施		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			その他カリキュラムでの総合的な発表の場を想定して行うので、ステージスタッフとしての仕事の考えられる計画や準備を重要視して行っていく。		
実務経験教員の経歴	舞台演劇活動歴10年以上				

科目名		制作			
担当教員	朝倉 隆司		実務授業の有無	○	
対象学科	芸術・音楽スタッフ科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	1	単位時間数	32時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 小規模（キャパシティ200名前後）のイベント企画・制作・運営を行える実務能力を養う。 2. 前期は企画から制作を中心に授業を展開し、後期以降はステージ舞台の基礎知識を養う。 3. まずは企画書が書けること。次にステージ舞台の制作運営がイメージ出来ること。				
学習目標 (到達目標)	小規模イベント（芝居・音楽ライブ）の企画制作が出来る。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	THE STAFF舞台監督の仕事（晩成書房 伊藤弘成）、その他プリント配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	イベントの基本的構想		組織づくり・スタッフ選定・予算決定・会期会場の決定・広報と動員計画		
2	イベント目的の設定・基本的コンセプトについて		目的目標の設定・テーマの設定・展開実施プランの作成・会場演出レイアウト・イベント内容・PRプラン		
3	マスコミ媒体・PR媒体・DMその他		告知方法・媒体決定・PR手段・招待・入場券手配・リスト準備・アンケート調査		
4	会場・展示・告知ツール作成		会場構成・装飾施工手配・出展物リスト作成・搬入搬出計画・来場者誘導計画・届け出について		
5	全体運営管理・責任分担と進行チェック		最終チェックポイント・出演者の確認・各スタッフ確認・マスコミ対応など		
6	効果測定と評価・実施予算集計と報告書作成		問題点まとめ、PR効果チェック・予算報告・イベント全体の報告書作成・次回への記録、情報集約		
7	企画書作成		テーマ・コンセプト・ターゲット・内容の作成		
8	企画書作成（広告・動員計画）		誰に、どのように情報を伝えるか。どこへアプローチして設定された動員数を集めるのか。		
9	前期模擬プレゼンテーション		作成した企画書をもとにプレゼンテーションを実施		
10	台本作り		前期に作成した企画書をもとに台本作成を実施		
11	組織の在り方		プロデューサー・ディレクター・舞台監督・音響照明・美術など、それぞれの役割と関係性。		
12	舞台監督は裏の主演		イメージを現実に・舞台は危険がいっぱい・舞台監督は先を読み・スタッフは根 P8～P12		
13	芝居作りの基礎知識（舞台）1		舞台各部の呼び名・幕について・場転について・迫りについて・舞台と客席の境に P14～P24		
14	芝居作りの基礎知識（舞台）2		吊り物・照明関係の機構・床面について・装飾を飾る P25～P28		
15	芝居作りの基礎知識（照明）1		主な照明の名称と略号・生明かりは舞台の空気・シーリングとトップ明かり P29～P35		
16	芝居作りの基礎知識（照明）2		明かりはフロントがポイント・バックは美しく・一条明かり・スポット・照明をあやつる P42～P50		
17	芝居作りの基礎知識（音響）		音も演技する・機材について・2C、2TC・音を広げる・耳で確認する P37～P73（抜粋）		
18	後期模擬プレゼンテーション		作成した企画書をもとにプレゼンテーションを実施		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
プレゼンテーション前期・後期80%、学習意欲20%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			基本的な基礎知識が中心となるが、この知識が無いと舞台制作は出来ない。定期的実施する舞台や音楽イベントを制作運営するためにも必要なことであるため、しっかり身に付けるようにして下さい。		
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて26年の指導、MBAホルダー				

科目名		演劇企画制作			
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科	演劇・声優スタッフ科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	一	単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 舞台・イベント等の興行の仕組みを理解する。 2. 企画・制作の仕事を理解する。 3. 興行スケジュールの準備から本番行程までの流れを理解する。				
学習目標 (到達目標)	舞台制作での興行プランの作成。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	演劇プロデュースに関する資料集まとめをコピーにて配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	演劇プランニング1	プロデューサーについて	演劇やイベントを組む上での必要な考え方		
2	演劇プランニング2	演劇スタッフの役割について	演劇公演に必要な人材や役割を理解する		
3	演劇プランニング3	公演準備について	公演時に必要な役割と準備		
4	演劇プランニング4 +C18:AD25	企画書の準備 提案	企画書作成に関する基礎知識		
5	演劇プランニング5	企画書の準備 ディスカッション	演目や内容の提案。内容に関する取り組み方と実現性について		
6	演劇プランニング6	企画書の準備 ディスカッション	いくつか取り上げたアイデアをもとに、実現性を考えてみる		
7	演劇プランニング7	アイデアの募集	様々な意見やジャンルからアイデアを集めてみる		
8	演劇プランニング8	企画書(案)の作成	アイデアを纏め、短時間設定での企画を立ててみる。		
9	演劇プランニング9	企画書(案)の作成(テスト)	仮想イベントを設定して、企画書の作成を行ってみよう(提出)		
10	演劇プランニング10	演劇公演について1	演劇論1 公演目的と意義		
11	演劇プランニング11	演劇公演について2	演劇論2 地域交流(イベント)		
12	演劇プランニング12	演劇公演について3	演劇論3 商業化する劇団		
13	演劇プランニング13	香盤表について1	出演者のタイムスケジュールについて		
14	演劇プランニング14	香盤表について2	スタッフ進行表について		
15	演劇プランニング15	企画書の作成	実演目的の企画を立ててみる。(演目時間自由)		
16	演劇プランニング16	企画書の作成	企画案を纏め、企画書の作成(提出)		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			簡単なイベントなどから、製作するモノを客観的に捉え、必要な物を揃えること。それをイメージしながら授業にて疑問を持って臨んでほしい。		
実務経験教員の経歴	舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年				



②

科目名		i-MEDIAゼミ			
担当教員	朝倉 隆司		実務授業の有無	×	
対象学科	演劇・声優スタッフ科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 毎回、特別講師をお招きして特別授業を実施する。 2. 講演会のように留まらず、実習・演習形式もありえる。 3. 全ての在校生および教職員と一緒に受講する。				
学習目標 (到達目標)	著名なゲスト先生によりスペシャルなトークになります。貴重な経験が出来、人生において大切なことが学べます。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	講師の事前資料あり				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1・2	スペシャルゲスト講師①		予定講師 声優・アーティスト・映画監督・プロデューサー・お笑い芸人・イベントプロデューサー・歌手・教育関係者・ユーチューバーなど		
3・4	スペシャルゲスト講師②				
5・6	スペシャルゲスト講師③				
7・8	スペシャルゲスト講師④				
9・10	スペシャルゲスト講師⑤				
11・12	スペシャルゲスト講師⑥				
13・14	スペシャルゲスト講師⑦				
15・16	スペシャルゲスト講師⑧				
17・18	スペシャルゲスト講師⑨				
19・20	スペシャルゲスト講師⑩				
21・22	スペシャルゲスト講師⑪				
23・24	スペシャルゲスト講師⑫				
25・26	スペシャルゲスト講師⑬				
27・28	スペシャルゲスト講師⑭				
29・30	スペシャルゲスト講師⑮				
31・32	スペシャルゲスト講師⑯				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
授業態度と出席場で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			事前に講師のプロフィールや資料を配布します。必ず事前に勉強して受講下さい。		
実務経験教員の経歴					





科目名		社会人常識マナー検定			
担当教員	鈴木 則子		実務授業の有無	×	
対象学科	演劇・声優スタッフ科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	16時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 社会人、組織の一員として必要不可欠な社会常識を理解する。 2. 人として必要な知識やビジネスマナーを修得する。 3. 良好な人間関係を築くためのコミュニケーション能力を修得する。				
学習目標 (到達目標)	1.社会常識を理解する。2.ビジネス計算力を身につける。3.立居振舞い、言葉遣いなどを身につける。4.ビジネスマナーの基礎を理解する。5.社会人常識マナー検定3級合格を目指す。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	公益社団法人 全国経理教育協会 社会人常識マナー検定テキスト 2・3 級 公益社団法人 全国経理教育協会 社会人常識マナー検定第21回～第28回過去問題集 3 級				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	社会人常識マナー検定試験について 社会と組織 1		社会人としての自覚やキャリア、会社組織について。テキストP1～20		
2	社会と組織 2		組織と役割、社会変化とその対応。テキストP22～32		
3	仕事と組織		目標の重要性、主体性と組織運営。テキストP34～54		
4	一般常識 1		社会常識の基礎用語。漢字など。テキストP56～70		
5	一般常識 2		社会常識の基礎用語。用語など。テキストP70～86		
6	ビジネスコミュニケーション 言葉遣い		人間関係とコミュニケーション。敬語と話し方。テキストP102～144		
7	ビジネス文書		ビジネス文書の特徴。社内文書。テキストP146～156		
8	ビジネスマナー		組織の一員としてのマナー。未答対応。テキストP176～196		
9	定期試験		テストと解説。		
10	電話対応		電話対応の重要性。電話の受け方、掛け方の心得。テキストP202～214		
11	交際業務		慶事・弔辞のマナー。テキストP128～238		
12	文書類の受け取りと発送		受発信文書の取り扱い。オフィス環境。テキストP242～249		
13	計算		ビジネスにおける計算。数式。テキストP90～99		
14	日本		都道府県名・県庁所在地・各県の特色など。		
15	検定対策①		過去問題の解説、確認。		
16	検定対策②		過去問題の解説、確認。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			社会人として必要なマナーや知識を修得。検定合格は勿論のこと、社会への意識を高めさせたい。		
実務経験教員の経歴	専門学校教員として19年間、学生の育成に従事。				

科目名		実践行動学			
担当教員	朝倉 隆司		実務授業の有無	×	
対象学科	※給・声優スタッフ科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数		単位時間数	15時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 前期1回、後期2回実施 2. 人間力（自主性・プラス思考・実行力など）の育成 3. Part 1～Part 3 を毎回グループに分かれて実施				
学習目標 (到達目標)	将来に対する目標設定・プラス思考・働くことへのモチベーション向上				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	実践行動学テキスト配布 実践行動学研究所				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	Part 1 マジックドア1		夢と目標 P1～P7		
2	Part 1 マジックドア2		読んだ思い込みと言い訳 P8～P13		
3	Part 1 マジックドア3		行動のよりどころと心構え P14～P22		
4	Part 1 マジックドア4		まず第1歩を P23～P32		
5	Part 1 マジックドア5		目標設定しよう P33～P38		
6	Step Up Sheet		目標設定達成の振り返り P39～P42		
7	Part 2 マジックドア1		プラス思考が自分の能力・可能性を大きく広げる P1～P4		
8	Part 2 マジックドア2		考え方を変えれば行動が変わる P5～P11		
9	Part 2 マジックドア3		あなたの問題は、あなたが解決できる P12～P19		
10	Part 2 マジックドア4		あなたのコミュニケーションスタイルを見直そう P20～P27		
11	Part 2 マジックドア5		目標が才能・可能性を開花させる P28～P32		
12	Step Up Sheet		目標設定達成の振り返り P34～P36		
13	Part 3 マジックドア1		入学から今日までの成長を実感しよう P1～P4		
14	Part 3 マジックドア2		働く自分をイメージしてみよう P5～P10		
15	Part 3 マジックドア3		自分が最大限に生きる働き方とは P11～P15		
16	Part 3 マジックドア4		将来を描いてみよう P16～P20		
17	Part 3 マジックドア5		夢実現への第一歩を踏み出そう P21～P24		
18	Step Up Sheet		夢実現整理・行動計画の振り返り P25～P28		
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
積極的取り組み40%、発表内容30%、リーダーシップ30%、 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。		講師はあくまでも授業の進行役（ファシリテーター）でしかありません。ファシリテーターの指示に従い、グループで授業を進めて下さい。			
実務経験教員の経歴	放送・音楽業界の現場に7年、専門学校にて26年の指導、実践行動学ファシリテーター資格者				

科目名		専攻実習			
担当教員	安川 嘉文		実務授業の有無	○	
対象学科	映画・映像スタディ	対象学年	1	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	182時間
授業概要、目的、授業の進め方	1. 1年生・2年生合同授業 2. 舞台制作プロセスと本番の経験 3. 各自、これまで学んだことを基本に企画から本番までを実施				
学習目標 (到達目標)	前期授業の集大成としての朗読・演劇・アフレコその他の制作および公演				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	舞台制作に関する必要物(台本その他)の配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	企画立案		どんな舞台を作る(演劇・ミュージカル・その他)		
2	企画書作成		テーマ・コンセプト・ターゲット決め		
3	企画書作成		内容		
4	企画書作成		予算・スケジュール・組織図・その他		
5	台本作成		資料収集		
6	台本作成		基本的構成決定～ラフ台本完成		
7	台本作成		台本完成		
8	舞台美術		衣装・大道具・小道具作成		
9	舞台美術		衣装・大道具・小道具作成		
10	舞台美術		衣装・大道具・小道具作成		
11	音響・照明プランニング		機材チェック・音源集め・舞台図作成など		
12	音響・照明プランニング		機材チェック・音源集め・舞台図作成など		
13	音響・照明プランニング		機材チェック・音源集め・舞台図作成など		
14	音響・照明プランニング		機材チェック・音源集め・舞台図作成など		
15	音響・照明プランニング		機材チェック・音源集め・舞台図作成など		
16	機材リスト作成				
17	機材リスト作成				
18	最終チェック		衣装・大道具・小道具・音響・照明直し		
19	最終チェック		衣装・大道具・小道具・音響・照明直し		
20	最終チェック		衣装・大道具・小道具・音響・照明直し		
21	リハーサル		会場入り(通し)		
22	リハーサル		会場入り(通し)		
23	リハーサル		会場入り(通し)		
24	ゲネラルブローベ				
25	本番				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
評価50%、制作過程での進捗状況20%、学習意欲30% 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以上)・D評価を不可とする。			観客を入れての本番になります。授業の一環というよりプロ意識を持って臨んで下さい。		
実務経験教員の経歴		舞台演劇活動歴10年以上			

科目名		声優イベント企画制作			
担当教員	矢頭 勲		実務授業の有無	○	
対象学科	演劇・声優スタッフ科	対象学年	1	開講時期	前期・後期
必修・選択	必修	単位数	—	単位時間数	32時間
授業概要、目的、 授業の進め方	1. 舞台・イベント等の興行の仕組みを理解する。 2. 企画・制作の仕事を理解する。 3. 興行スケジュールの準備から本番行程までの流れを理解する。				
学習目標 (到達目標)	舞台制作での興行プランの作成。				
テキスト・教材・参 考図書・その他資料	演劇プロデュースに関する資料集まとめをコピーにて配布				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	演劇プランニング1 プロデューサーについて		演劇やイベントを組む上での必要な考え方		
2	演劇プランニング2 演劇スタッフの役割について		演劇公演に必要な人材や役割を理解する		
3	演劇プランニング3 公演準備について		公演時に必要な役割と準備		
4	演劇プランニング4 +C18:AD25 企画書の準備 提案		企画書作成に関する基礎知識		
5	演劇プランニング5 企画書の準備 ディスカッション		項目や内容の提案。内容に関する取り組み方と実現性について		
6	演劇プランニング6 企画書の準備 ディスカッション		いくつか取り上げたアイデアをもとに、実現性を考えてみる		
7	演劇プランニング7 アイデアの募集		様々な意見やジャンルからアイデアを集めてみる		
8	演劇プランニング8 企画書(案)の作成		アイデアを纏め、短時間設定での企画を立ててみる。		
9	演劇プランニング9 企画書(案)の作成(テスト)		仮想イベントを設定して、企画書の作成を行ってみよう(提出)		
10	演劇プランニング10 演劇公演について1		演劇論1 公演目的と意義		
11	演劇プランニング11 演劇公演について2		演劇論2 地域交流(イベント)		
12	演劇プランニング12 演劇公演について3		演劇論3 商業化する劇団		
13	演劇プランニング13 香盤表について1		出演者のタイムスケジュールについて		
14	演劇プランニング14 香盤表について2		スタッフ進行表について		
15	演劇プランニング15 企画書の作成		実演目的の企画を立ててみる。(演目時間自由)		
16	演劇プランニング16 企画書の作成		企画案を纏め、企画書の作成(提出)		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
定期試験40%、レポート25%、実技試験25%、学習意欲10%  成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)・D評価を不可とする。			簡単なイベントなどから、製作するモノを客観的に捉え、必要な物を揃えること。それをイメージしながら授業にて疑問を持って臨んでほしい。		
実務経験教員の経歴	舞台演劇活動歴30年以上、 舞台演出・舞台監督・演技指導歴15年				